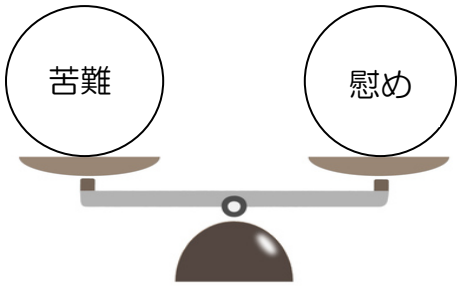
２０２２・３・２０　　黄金井尚美　主任牧師

＜悩みの中で見出す幸い＞

Ⅱコリント１：３～７

「慰め」（パラクレーシス）・・・強める、支えるという意味。
「助け主」（パラクレートス）という名と同じ言葉に由来している。
真の慰めは神から来る。



イエス様は、最期の晩餐の席で弟子たちに言った。
わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。　ヨハネ１４：１６

イエス様は知っていた。
この後、弟子達が使徒となって福音を伝えるために受ける困難を。
あなた一人を遣わすのではない。あなたと共に聖霊がいると。

♦聖霊は私たちの内に共に住み、耐荷重を超える重荷で折れそうな私たちを強めて、支えてくださる。慰めの神、助け主。

パウロは宣教の現場で「苦しみと慰め」を知った。
ヨーロッパ宣教：ピリピの町での投獄。そして看守の救い。ピリピ教会誕生

私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストによってあふれているからです。
【５節】

苦しみに遭うこと自体が、私たちの内に慰めを入れる余地をつくってくれる。
苦しみが深ければ深いほど、それと同じ深さで慰めもある。

主よ。深い淵から、わたしはあなたを呼び求めます　詩篇１３０：１
深い苦悩にあるたましいの奥底から来る祈りほど、力強いものはない！

神からの慰めを得たパウロは、神の目的があるのだということを知るようになった。
ただ労苦があるだけではない！

悩みの中にいても幸いだと言えるのは・・・
神様と親しく相談を始めるから。
手に負えない問題に直面する時に、頼れるのは自分だけであれば、それは孤独。
しかし、「死者をよみがえらせてくださる神」が自分と共にいる。
それを知る絶好の機会がここにある。

兄弟たちよ。私たちがアジヤで会った苦しみについて、ぜひ知っておいてください。私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、ついにいのちさえも危なくなり、 ほんとうに、自分の心の中で死を覚悟しました。これは、もはや自分自身を頼まず、死者をよみがえらせてくださる神により頼む者となるためでした。　【８、９節】

暗闇が濃く覆うときには、光がより一層明るく見える。
試練が大きければ、慰めを受ける余地も大きい。

私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、どうにかして死者の中から復活に達したいのです。私は、既にそれを得たのでもなく、既に完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追及しているのです。そしてそれを得るようにとキリストイエスが私を捕らえてくださったのです。　ピリピ３：１０～１２

「慰め」は、主が私たちを抱き寄せて、しっかり離れないようにくっついていなさいと言われることを、私たちが忘れないため。